

# ひまわりからの メッセージ

61号

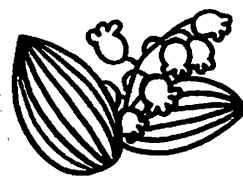
2016.5.9.

NPO ひまわりの花内  
西濃園域  
飛達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

## 被災地に

思いを寄せて



熊本では大変な地震が起きました。地震は、いつでも日本のどこで起きても不思議ではないといわれますが、被災地の子どものたちのことが気がかりです。皆が大変でしょうが、特に予測が苦手な感覚過敏の子どもたちは、おそらく避難所生活など不可能でしょう。気になっても、何もできない自分に対して、苛立ちを覚えながら、日々を過ごしている人も多いことでしょう。私もその一人です。

昔、この地域でも濃飛大震災がありました。幼い頃、村の長老の方から「家の中にいられなくて小屋かけをして暮らしていたと大じいちゃんに聞いたことがあったよ」として、「家の周りには竹藪があるだろう。竹は根が張っていて逃げ込むと安全だったらしいよ」と聞かされたことを思い出しました。そういえば、今は竹藪はすっかり姿を消してしまいましたし、近くにあった断層

あとと聞かされていた場所は埋め立てられてしまいました。生活の変化は、また新たな災害を生むのかもしれない。

ところで、皆さんは、連休もどの様に過ごされましたか。

私は、被災地のことが心にかかりながらも、庭の草取りをはじめました。

わが庭には、柿の木が三本もあり、ちょうど若葉の美しい季節です。万葉集の研究者として高名な北山茂夫の友人でもあった歌人、大塚泰治は、この地に泊った折りに

鍋の尻こする音にて眼ざめたり宮代村は柿若葉どき、

と詠みました。六十年も昔のことです。

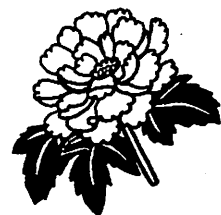
その一首を思い出しながら、わが庭を見渡すと、かたはみふき、どくだみ、かすのえんどう、シダ、宝ちく草などがぎっしり繁って、まるで山道の光景です。でも、その中で咲きはじめたマーガレットに、どこからか紋白蝶が飛んできました。そして、追いかけるように黒あけはも飛び交い、私は暫し蝶たちの姿に見入ってしまいました。

山の自然の中に居るような、こんな庭も悪くないかな……と最近思っています。雑草と一まとめで言われるどんな草にも名があり、その一つ一つが可憐な花を見せてくれますから……。人も同じだなあと、ふと思つのです。被災地に思いを寄せながら、今、私ができることを精一杯やろうと思いを新たにしました。

# 自分を見直す

ひとりひとりの

子どもたちを受け止める力を



発達障害者支援法が制定されて十年になります。この十年の間に発達障害がに対する理解が進んできていると思う反面、「まだまだ……」とか「えっ何故？」とか「今までの施策の逆行ではないの？」と思うことが本当にたくさんあります。そして、「私はこの話を何度したのだろう？」「いつまで、くり返していかなくてはいけないの？」と思うことも度々です。

岐阜県の障害福祉課では、「強度行動障害」に目を向けた施策が始まっていますが、強度行動障害は、二次的な障がい、つまり、こじれさせられてしまった障がいであるという認識が私たちにあるのかどうか……と、考えさせられてしまいます。私たちという中には、勿論、教育関係者も、保育者も、療育の関係者も含まれていますし、家族の方々も含まれています。私たちの保育が、療育が、教育が正しかったのかどうか……今、強度行動障害で苦しんでいる人たちへの支援はもう必要ですが、私たち自身がもう一度自分の関り方を見直して、今後には再度のあやまちを犯していかないようにしていくことが必要ではないのか……と思うのです。

「途切れない支援を」と言いつつ、フラッシュバックとかタイムスリップ現象で苦しむ人のどれ程を理解できていたのだろうか、どんな対応や支援によって助かるのか知ろうとしていたのだろうか？…これは私の課題でもあります。

「この子は音への過敏性があります」と口にする指導者が、では、どんな音に、どんな時に？、誰か特定の人の声に？と具体的にたずねると「そんなこと、考えてませんでした」と言われることもあります。「より具体的に」は、キーワードでしょう。

「長い話だと聞いているのが難しい」と引きついだはすなのに、長々と話し続けて分からせようとされる先生もいますし、姿勢保持ばかりに注意を促して、「姿勢よく、本を立てて読む」ことの中で、一番大切にすべき所はどこなのか、目の前の子にこの教育的ニーズがどこにあるのかと考えて下さっているのかと問いかけたくなる場面もあります。

「視覚支援が大切だから……」と、保育室の中のどこに注目したら良いのか戸惑う位にカードや写真が呈示されている場面も見かけます。「刺激↕反応」を考えるべきでしょう。

私たちは、やはり、一人ひとりをもうとよく知ることから始めなくてはならないのだと思います。今、良かれと思ってることとが、本当は将来の強度行動障害につながっていくことではないのか、やってはいけないことを本人が自覚しているのかどうか、今困っていることは、何に起因していることなのか……。私たち

はどうしても診断名がつくことで、何か分かった気になってしまします。一くくりに見てしまいがちです。それは私にも言えることで、「以前こんな例があったなあ」と思いがちです。似た特性ではあっても、一人ひとりに向き合っていくことを新たに肝に命じていきたいと思えます。

途切れない支援を……と願っても、それは、そう簡単なことではありません。人を育てるということは、長い時間をかけて、地道に積み上げていくことです。行政は、試しに何年間か予算をつけてみて、次に新たな試みをしていくことが課せられているのかもしれませんが、しかし、保育、教育は継続していくことが必要です。しかも、その子にとって必要な支援が引きつがれてきても、理解のない担任に代わった途端に今までのことがマイナスになってしまう事だってあるのです。

## 必ずわかっていて欲しい大切な事

人は誰でも、自分の体や感覚や思考や認知などをベースにして他の人を判断するものです。ですから、発達障がいの子どもたちやどんなことで困るのか、理解できないというのが本音なのかもしれません。しかし、引き継ぎ事項として知っておくことで、子どもたちの不可解に見える行動や自分勝手に見える行動のベースに在る困り感が見えてくることもあると思います。そして同時に、その対処法を見出し出していく一助となると思うのです。

### ① 感覚の問題

他人に触れられて嫌な子、ベタベタやめるめるの感覚への反応、音に対する反応など感覚の問題はないのか？、何かを持ていないと不安だということはないのか？、暑さに弱くはないか？、天候に左右されることはないのか？、

### ② 体の問題・バランスや力加減

姿勢保持が難しい？、まっすぐ立っているのが苦手？、力加減がわからずに友だちを強く押してしまう？、声の大きさや力の入れ方の調整ができない？、口をいつも開けている？、左右の手の協調動作は？、

### ③ 視機能の問題

最近特に注目されています。読字や書字の困難さのある子の中には、追視がうまくできなかったり、焦点合わせができなくて困っている子もいます。視力検査ではわからないのですが、黒板の字が書き字せない子には、視機能の問題を考慮すべきですね。

### ④ ことばの問題

目の前の子は、どの位の言語理解をしているのか？、理解している語の数ほどの位あるのか知っていますか？、「計算はできるけど文章問題は苦手な子」と、中学生になって気づかれても困るのは子どもです。自分の子の苦手を担任の先生に訴えても「大丈夫と言われるんです……」とお母さんたちの困惑顔にど

う対応してあげるといいのかと思います。

ことばの理解には、ことばからイメージを広げていく力が必要です。その力が弱い子にとっては、日々の授業は本当に難しいことでしょう。友達とのトラブルも、ことばの理解と表現する力の弱さからくることが多いのです。ことばづかいの悪さを指摘する前に、コミュニケーションの力をつけてあげませんか？どのようにとばで表現したらいいか、教え、気づかせてあげたいものです。

## ⑤ 対人関係

一人でいることが好きな子もいます。友だちを求める子もいます。皆が同じでなければならぬということはないでしょう。ただ受動タイプのお子さんは、極度の人見知りなどがあり、なかなかお母さんから離れられず、集団の中では緊張しつづけているために家庭で暴君になってしまう例もあります。

対人交流のタイプとして孤立、受動、積極、形式などのタイプがあることを知っておきましょう。

## ⑥ 集団適応力

多動性、衝動性、集中保持などのほかに対処能力も見ておきましょう。自分で勝手にルールを変えたり、一番へのこだわりが強いなどの行動はないか？、自分の思い通りにいかなかった時、どうするのか？、分からない時や困った時にどのように行動するか？、相手と協力することはできるのか？、謝ることはできるのか？、なども本人とかわる人として

知っておきたいことです。

最近、私のもとには高校生や成人の人の相談もふえてきます。聞いていると小さい時から特性があって本人も家族も困っていたにもかかわらず適切な支援を受けて来なかったケースが多いのです。自分がとんでもないことをしているのだという自覚をもっていない人、あたりまえの様に家族に暴力をふるったり、ネットで際限なく買物をしたりする人、優先順位がつけられないために生活上でも困っている人等々、もっと早い時期に分かっていて、サポートしていれば、それほどにならなかったのに……と思うのです。

発達障がいはお母さんの育て方が原因では決してありません。けれども気づいた時が支援のスタートです。今までも何度も言いつづけていますが、その子にかかわる人たち全てが理解者になることが大切です。理解者になることは、何も本人の言うがままに周りが従うことではありません。

途中で途切れてしまう支援や、まちがった保育、教育がこじれさせてしまうことだけは、何としても避けたいと願っているのです。自分の育見を、保育を、教育を見つめ直してみませんか？、

6/20 センター親の会 9:30 ~ 12:00

7/9 13:00 ~ 15:00 井川典克先生講演(保護者対象)

ソフトピア・パンセンター 10 F.